

4 か月間の韓国留学の中で経験した大切だと思うこと、心がけたほうがいいと思うことを主に記述する。

トウミ制度で出会った韓国人の方との付き合い方である。私のトウミをしてくれたチョン・ヘジョンさんはキョンヒ大学の水原キャンパスに通っていて、1年間東京に留学経験がある方だった。はじめは、韓国語でうまく伝えることができず日本語を使ってしまうたり、相手に気を遣ってしまったりしていたせいで、会話の途中の分からない単語や表現を流してしまっていた。徐々に仲良くなるとなんでも聞けるようになったのだが、ここで気づいたことは、自分は外国人だということである。失敗や恥ずかしい思いをすることを恐れている上達するものも上達しないのである。ヘジョンさんは私に「ここでは外国人なんだから失敗して当たり前だし、たくさん間違ってもいいんだよ」と声をかけてくれた。この言葉を本当に私の心に残るものとなった。それからヘジョンさんにも町の人や先生にも自分が伝えたいことを間違ってもいいから伝えてみることにした。これに気づくことができなかつたら私の韓国語の上達はなかつたと思う。

いろいろな人と関わりをもつことも大切だと感じた。私のトウミのヘジョンさんは大学のオーケストラサークルに所属しており、サークルの代表を務めていた。そこで、二人でご飯に行く際にそのサークルの先輩イ・ジヒョンさんを紹介してくれたのだが、この方は全く日本語ができない方だったので3人で話すときは常に韓国語だったし、話し方もヘジョンさんとは少し違う感じがして、コミュニケーションがとても面白かった。またオーケストラサークルの忘年会に参加させてもらえる機会があり水原まで行ったのだが、そこにはもちろん韓国人の方しかおらず、ヘジョンさんも代表なので忙しくしていたため、頑張つて自分一人でコミュニケーションをとらなくてはいけない状況になった。心配はあったものの私は韓国の映画がとても好きでよく見るので、その話しで盛り上がる事ができた。その忘年会が終わった後の達成感は今まで感じたことのないものだった。

また毎日同じクラスと一緒に韓国語を勉強する外国人の方たちは韓国語がとても上手な方から苦手そうな方まで様々だったが、皆一様に授業に積極的で、自分の意見を言ったり堂々と返事をしたりする姿にとっても刺激を受けた。私はその積極性に魅せられ、自分ももっと堂々としたと思うようになった。

長くなったが、このように4 か月間の留学で多くの人と出会い、やったことのないことに挑戦し、韓国語を学んでいくうちに少しずつ自分の成長を感じることができ、日本に帰ってきた今は達成感でいっぱいである。これから留学しようと考えている方も上記のことを考えながら留学に臨めばきっと良いものになるだろう。